

福井市内49地区社協と市社協をつなぐ情報紙



むすんで ひらいて

第54号
発行日
令和6年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧いただけます



福井市地区社協連絡協議会開催！

テーマ

「地域の居場所づくりについて」



▲「なないろてんとうむし」による取組発表



▲「みんなの保健室宝永」による取組発表



鷹巣地区

津波警報時、民生児童委員や福祉委員が中心となり、ひとり暮らし高齢者の安否確認をしました。



連絡会の後は、コロナ感染拡大のため、4年ぶりに年賀会が開催され、各地区同士の交流がにぎやかに行われました。

後半は、市社協から令和6年能登半島地震に係る支援状況をはじめ、海岸部の地区の皆さんからは、津波警報発令時の対応についての報告がありました。

1月18日(木)、福井県民ホールで各地区社協の役員等約140名が参加し、福井市地区社協連絡協議会1月連絡会を開催しました。前半は、「地域の居場所づくりについて」と題して研修を開催しました。子ども食堂を開催している麻生津地区の「なないろてんとうむし」と、地域の方の拠り所を目指し、様々なサロンやイベントを行っている「みんなの保健室 宝永」に取組を発表していただきました。両団体からの地域の実状に合わせた取組内容を聞いて、「自分の地区で何かはじめるように！」と思っている方の後押しになったのではないのでしょうか。

みんなで一緒に誰もが安心して暮らせるまちづくりを！



酒生地区

「おしゃべりカフェ」

酒生地区では、毎月第4火曜日に公民館で「おしゃべりカフェ」を開催しています。このカフェの特徴は、「年齢を問わず、誰でも参加 OK！何をしても OK！参加費は無料」なことです。地区の方々の「コロナ禍で交流が少なくなり、寂しい」という声をきっかけに、地区社協が計画し、令和5年6月にスタートしました。

あえて活動内容を決めず、その場の様子や雰囲気ですべて自由に活動しています。参加者同士で自分の得意なことを教え合ったり、折り紙やトランプを楽しむ人がいたり、コーヒーを飲んで喋るだけの時間があったりと自由な交流の場になっています。参加者からは、「ここに来れば誰かがいる。こういった居場所があることがありがたい」という声が聞かれ、毎月の開催をいつも心待ちにしている様子でした。



▲踊りが得意な参加者がいれば、音楽に合わせて皆で踊ります。



▲カフェで使っているお手玉も、地区の方の手作りです。

中藤島地区

「認知症高齢者見守り活動 模擬訓練」



認知症の方への対応の
心得3つの「ない」
「驚かせない」
「急がせない」
「自尊心を傷つけない」



10月22日（日）、中藤島小学校体育館で、4年ぶりに、認知症高齢者ひとり歩き見守り模擬訓練を開催しました。中藤島地区では、地区社協が中心となり、民生児童委員や福祉委員のみならず、一般住民の方にも案内し、自治会連合会と共催にすることで、当日は約70人もの方が参加されました。

模擬訓練は6グループに分かれて行い、スタッフが「コンビニに支払いに行く途中で階段で休憩しているおばあちゃん」や「孫を学校まで迎えに行ったら迷子になったおじいちゃん」など認知症高齢者役になり、様々な場面設定で行いました。参加者の皆さんは、『認知症の方への対応の心得3つの「ない」』に気を付けながら声かけや見守りを行いました。座学だけではなく、シミュレーションで実際に体験することができました。参加した中学生は、「実際に体験してみて、声かけすることの大切さを知った。これからも地域で困っている人がいたら、積極的に行動していきたい」と話してくれました。

地域全体で見守り、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを目指して、認知症の方に必要な助けの手を差し伸べられる人を増やしていきたいですね。

福祉委員の活動にご理解を!!

令和6年4月1日に福祉委員が改選となります!!

■福祉委員について詳しく知りたい場合、右記のQRコードからご利用いただけます。

問い合わせ 福井市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL: 0776-26-1853



現役福祉委員の声

(令和5年8～10月に市社協が全福祉委員を対象に実施した見守り活動についてのアンケート調査より、抜粋)

- *「今まで知らなかった地域の方とも知り合えたのが良かった。」
- *「地域の活動に参加でき、高齢者の方々とのお付き合いが多くなり、自然と気に掛けることができるようになりました。」
- *「素晴らしい町内に住んでいることを実感した!」
- *「以前は近所付き合いが少なかったが、福祉委員をするようになってからいろいろな人とお話するようになり、会うと『ありがとう』と言ってもらえたりお年寄りの方からもよく声をかけてもらうようになり、近所の繋がりが増えて、活動してよかった。」



見守り活動に関するあったかメッセージが届きました

「あったかメッセージ」とは、見守り活動をしている方々（福祉委員や民生児童委員など）への応援メッセージです。

応援メッセージをくれたのは、見守り活動している方から声をかけられている皆さん。地域の中での心地よさ、ほっこりしたエピソードや、見守り活動への励ましなど、人と人とのつながりを元気づける数々のメッセージの一部をご紹介します。



自治会型デイホーム

- ♥ 町内の人との久しぶりの会話、そして変化のある催しで、唯一の生きがいです。計画・準備等大変ですが、どうぞずっと続けてくださるようお願いいたします。(文殊地区・80代)
- ♥ 福祉委員さんありがとう! デイホームはほぼ毎回出席させていただきました。自然と衰えを感じる事もありましたが、皆さんと会えて、会話やプリント等楽しい時間を過ごすことができました。(鷹巣地区・70代)
- ♥ 高齢になると家にいる方が多くなります。「今日行く、今日用がある」と出れる日を待っています。デイホームはとても楽しいです。人と会う、笑う、おしゃべりなど、健康な体の源だと思います。(清水南地区・80代)

食事サービス

- ♥ 福祉委員さんには、いつも美味しいお弁当を届けていただきありがとうございます。今日もまた、元気で生きできた喜んで感謝しております。(酒生地区・80代)



見守り訪問活動

- ♥ いくつもの役をされておられる民生委員の方がお忙しい中訪ねてくださり、毎回豊富な話題が楽しみです。高齢のため、時には落ち込みますが、また民生委員の方が来てくださるので元気でいなければと励みにもなっていて、感謝しています。(岡保地区・80代)
- ♥ 食事サービスを受けているので、民生委員の人は月に1回は来てくれるが、先日の地震の時には心配して訪ねてくださった。一人である私には助かり、うれしかった。(木田地区・80代)

地区社協の活動と取組を紹介します

宝永地区

歴史に寄り添って
地域が一体化した福祉活動

宝永地区には、「名勝・養浩館庭園」、「お泉水公園」、「市郷土歴史博物館」更には「歴史の道」などが存在します。また自治会の名称などにも「鍛冶町」、「鷹匠町」、「御駕町」、「江戸上りの組」などといった歴史が色濃く残っています。

そして毎年、春には「養浩館庭園のライトアップ」、夏には「お泉水フェスタ」のイベントを地区を挙げて開催する一方で、地区にまつわる歴史上の人物や風物を題材とした「歴史かるた」の作成も行ってきました。

こういったこともあって、地区内には、共助のことに力を惜しまない、「古き良き時代の昔気質」といったものがあり、地区社協が行う各種事業についても、地域の皆さんが進んで協力してくれる状況があつて、心強く思っています。

特に各自治会に配置されている福祉委員については、お年寄りの見守りのほか、食事サービス事業における手配や配食、デイホーム事業における参加募集やお手伝い、敬老会の参加募集やスタッフとしての役割、更には賛助会費や赤い羽根共同募金に至るまで、大変



サロン（自治会型デイホーム）と愛媛女子高校コーラス部との交流



食事サービス事業のお弁当と宝永小児童の皆さんによる弁当包み紙、絵手紙

な活動をしていただいております。

ともあれ今般のコロナ禍に伴い、福祉活動全般におけるひずみや活力の低下が生じておりますので、当面は、歴史に育まれた地域の特性に寄り添いながら、活動の水準をコロナ禍前までに引き上げるべく、決意を新たにしている次第です。

宝永地区社会福祉協議会

会長 松成 嘉實

本郷地区

人とひとで育む「きずき」「ふれあい」「きずな」「ぬくもり」「よりそい」「5つの福祉活動

本郷地区は福井市の西部、16の集落1団地が点在し、のどかな農山村地域です。また、温泉付き身障者施設「七瀬の郷」があります。

今回は活動の中から2つ紹介したいと思います。1つは、限界集落を抱えながらも豊かな自然に恵まれた環境の中で、安全、安心、安否確認のためにも、自治会型デイホームの充実と、参加者の減少に歯止めをかけるべく、日々努力をしています。毎年、専任職員を中心に、デイホーム協力員の方々との連携を密にして、年間の日時・予定を決め、指導員のきめ細やかな対応はもとより、毎回寄り添う会長のユニークなトーク、得意とする紙芝居、替え歌、川柳、スワップ三味線等々、二人三脚で頑張っています。専任職員が考案した「コロコロ」カーリングをはじめ、いろいろ

なアイデアを出しながらの催しは、時間を忘れるほどであり、毎月の開催で



取り入れ、毎回好評です。さらに、男性の参加を促進するため健康麻雀を取り入れ、現在毎回5名の方が参加継続中です。また、地域全体をフォローした合同「デイホーム」で実施した「フロアカーリング」には90歳以上の人が参加するほどの盛り上がりです。

2つは、認知症予防講習会です。「コロナ禍により開催が中止になってしましたが、サポーター講習寸劇・訓練等を通じ、毎年実施した経歴が認められ、認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に寄与したとして、令和2年には、市から表彰状もいただきました。小学生から高齢者まで幅広い世代において認知症に関する正しい理解が深まっております。安心して暮らし続けることができるよう、3月には講習会を再開する予定です。

少子高齢化が進む中、高齢化率の高い地区(3月1日現在35.53%)として、自治会をはじめ民生児童委員・福祉委員の皆様や各種団体、住民の連携・協働をさらに密にして、人とひとで育む「きずき」「ふれあい」「きずな」「ぬくもり」「よりそい」の安心して暮らせる地域福祉活動を進めたいと思っております。

本郷地区社会福祉協議会

会長 松並 久太夫